

てで

舌音にして單子音の一つ。う音の前に續く時はちようゝと發音せらるゝ事多し。

ての濁音。

手(名)

〔一〕人類の肩より出でたる枝。臂、腕、掌、指など之に屬す。〔二〕所爲。●仕方。●術。

○「舞の手」「琴の手」「相撲の手」「柔術の手」

〔三〕書。●手蹟。〔四〕隊。●組。●勢。〔五〕

人。○「話手」「やり手」〔六〕器具などの手に持つところ。

つの變化。○「言ひてよし」「捨ててけり」

(助動)

(後)

動詞と動詞、動詞と形容詞、形容詞と形容詞、形容詞と動詞などの間に置く詞。〔一〕前の

詞よりは後の詞の方が時の進む意をあらはす。○「風吹きて(而して)後花散る」夜に

入りて(而して)後歸る」〔二〕事の同時に起る意をあらはす。○「笛を吹いて(同時に)來る人あり」ほのみねて(同時に)色づく木々」

出る事。○「日の出」「水の出」

で

出(名)

で

(後)

〔一〕ての打消。●ずして。●すて。○「忘れで思ふ」逢はでわびし」〔二〕にての俗語。

○「道で逢ふ」箸で食ふ」

みかど。●天皇。●天子。●皇帝。

屋敷。

ちん。●あづまや。

みさを。●節操。●婦徳。

おさうさ。

友人に對して自分を呼ぶ詞。●私。●僕。

泥(名) 〔一〕ごろ。〔二〕繪具の一種。金銀粉を膠の液にて溶きたるもの。

出居(名) いでぬに同じ。貴族の家の對面所。○

源氏「客人の臣でぬさぶらひさしつらひさわけば」

帝位(名) 帝王の位。

延尉(名)

檢非違使判官の異名。

剃髮(名) 〔一〕髪を剃る事。●坊主頭になる事。●雍髮。△(動)剃髮す。〔二〕佛門に入る事。●出家。

碇泊(名) 船の碇を下ろして泊る事。△(動)

碇泊す。

ていはづ

ていはづ

ていはづ

て

ていば^ホ

堤防(名) 堤を築きて水を防ぐ事。又は其堤。

ていど

帝都(名) 皇居の所在地。

ていど

程度(名) 定め^レの度合。●程合。●度。

ていたう

抵當(名) 借金を返す能はぬ時に賣拂ひて償はん^ニと約する其物品地面。●書入。●引當。

ていさう

低頭(名) 頭を低るゝ事。●辭儀する事。△(動)―低頭す。

ていさう

(感) 鼓の聲。△(副)―ていさうと。(形)―

ていさうの。○謡曲「ていさうの拍子を揃

へし」

ていだう

帝道(名) 帝王の國を治むる道。

ていさく

提督(名) 一艦隊の總督。

ていち

貞女(名) 操正しき婦女。●節婦。

ていちよう

鄭重(名) 丁寧懇切なる事。●おもくしき

でいり

出入(名) 出で入り。●しゅつにふ。

ていりつ

鼎立(名) 鼎の足の如く三方に立つ事。△

(動)―鼎立す。

ていわう

帝王(名) 帝に同じ。

ていか

定價(名) 一定の價格。

ていかり

定家流(名) 書法の一派。藤原定家の書

ていかかつら

き創めたる風。一名は嵯峨様。觀世流の謠本には今も之を用ふ。

定家葛。縹石(名) 「二」蔓

草の名。葉は橘の如く花は梔

に似て少し白く香ばし。蔓長

くして垣又は石にはふもの

「二」古代模様の名。(圖)



でいがん

泥眼(名) 能面^ニの名。女面にて眼に金泥を入

れたるもの。

ていた

手板(名) 笏^{しやく}の異名。

ていたらく

爲體(名) 有様。●成行。○「そのていたら

くはかやうく」

ていそう

遞送(名) 宿つぎにて送る事。●郵便通運な

ごにて送る事。△(動)―遞送す。

ていそく

定則(名) 一定の規則。

ていそく

鼎足(名) 鼎の足の如く三個とも輕重大小な

く位置を保つ事。

ていねい

丁寧(名) 懇なる事。●念^ニを入るゝ事。●鄭

重。△(形)―丁寧なる。(副)―丁寧に。

でいねい

泥濘(名) めかるみ。

ていねん

丁年(名) 満二十歳。

ていけ (名) 天氣の音便。○土佐「ていけの事につけ

て祈る」

ていかう 抵抗(名) はむかふ事。●手向ふ事。●張合

ふ事。△(動)―抵抗す。

ていこく 帝國(名) 「一」皇帝を戴く國。「二」我日本。

ていき 定期(名) 一定の期。

ていき 定義(名) 一定の意義。

ていきやうれき 貞享曆(名) 後西院天皇の貞享三年

に作られたる曆。

ていきん 庭訓(名) にはのをしへを見よ。

ていきん 丁銀(名) ちやうぎんに同じ。

ていし 停止(名) 期限を定めて其間止むる事。△(動)

―停止す。

ていしやう 庭上(名) 庭の地上。

ていじやう 呈上(名) 贈與の敬語。●進上。●献上。

△(動)―呈上す。

ていしよく 牴觸(名) 觸るゝ事。●衝突。△(動)―牴觸

す。

ていしつ 帝室(名) 帝王の御家。●皇室。●王室。

ていしや 停車(名) 車を停むる事。△(動)―停車す。

ていしやちやう 停車場(名) 瀋車、馬車等を停めて

乗客を昇降させる所。●ステーション。

ていしゅ 亭主(名) 「一」家の主人。「二」夫。《俗》

ていしゅ 提出(名) 議案など差出す事。△(動)―提出

す。

ていせい 訂正(名) 文章などの誤句誤字を調べ正す

事。△(動)―訂正す。

ていせい 貞節(名) 正しき節操。●貞操。

ていせい 呈(他動サ變) 呈上する。●差上ぐる。

ていすゐ 泥酔(名) 泥の如く酔ふ事。●大酔。●大酩

酩。△(動)―泥酔す。

てば 出端(名) 出る機會。●立ち出づる折。

てば 出及(名) 出及庭丁の略。

てば 出齒(名) 唇より外に突き出でたる齒。●反齒。

てばうち 出及庭丁(名) 庭丁の一種。齒厚

く先尖りて肉など切るに用ふるもの。

てばり 出張(名) 出張る事。●出張。●派出。

てばる 出張(自動四段) 手に餘る。●もてあます。

てばる 出張(自動四段) 先方へ出掛け行く。●出張す

る。

てばたき (名) 「一」手を拍つ事。●拍手。「二」我手の

物の残らず盡くる事。

てばなる

手離(自動下二段)

手より離るゝ。●其人より離るゝ。

てばなす

手放(他動四段)

我より放す。●我身より放す。

てばやし

手早(形。形状言ク活)

舉動の敏捷なる有様。

てばこ

手箱(名)

手道具を入るゝ箱。

てはじめ

手始(名)

其事の爲し始め。●着手。

てはす

手筈(名)

手順。●手配。●手續。●順序。

てには

(名)

てにはに同じ。

てにをは

(名)

てやにやなやはなどの文字を其種類の

代表者として名づけたる詞。◎「一」現今文

法家の稱する後詞、助動詞の總名。「二」係

結。「三」物事の前後の掛合。

てほどき

(名)

藝術など教へ始むる事。初歩。

てほん

手本(名)

「一」文字を習ふ時見て書く標準の書

帖。●法帖。「二」總べて標準となるもの。

●かた。

てばうだい

出放題(名)

口に任せてしゃべる事。●放言。●漫語。

てほこ

手鉢(名)

鉢の種類。(盛衰)

てへん

手偏(名)

漢字の偏の名。持、把、打等の左の部

分。

てへん

天邊(名)

「一」胃の頂上。○平治「胃のてへん

に熊手を打ちけんさ」(二)すて頭の頂上。

てとほし

手燈(名)

手燭。

てとり

手取(名)

相撲の詞。術に巧なる力士。

てどり

手抽(名)

素手にて敵など捕ふる事。

てとりなべ

手取鍋(名)

手のある鍋。

てだうぐ

手道具(名)

手近く使用する道具。●小道具。

●調度。

てちか

手近(名)

手近き事。●近邊。

てちがひ

手違(名)

手筈の違ふ事。●やりそこなひ。

●失敗。●失策。

てちかし

手近(形。形状言ク活)

身の傍に近き。●あた

り近くにゐる。

てちやちよう

手帳(名)

手扣の帳面。

てちやちよう

手錠(名)

刑罰の具。枷の一種。鉄にて造

り手首に纏はするもの。●てがね。

てりやき

照焼(名)

食品の名。魚肉に醬油、味淋などの

煮汁を附けて焼きたるもの。

てりあはらす

照合(他動四段)

雙方見くらべる。●對

照する。

てぬ

(助動)

過去のてと打消のぬ(すの變化)とを重ねたる詞。●たらぬ。○後撰「かくながら散らて世をやは盡してぬ花のときはも有りて見るべく」

てぬるし

(形。形狀言ク活)

所置の緩漫なる。

てぬぐひ

手拭(名)

手顔など拭ふに用ふる三尺の木綿切れ。●てのごひ。

てぬけ

手抜(名)

牛落。●ぬかり。

てる

照(自動四段)

いっやく。●光る。

でる

出(自動下二段)

出づに同じ。○「月がでる」「人がでる」(狂言)

てるたへ

照妙(名)

照り輝くやうに美しき織物。神に奉る時にいふ詞。(祝詞式)

てるてるぼふし

照々法師(名)

てる／＼ばうすに同じ。

てるてるばうす

照々坊主(名)

晴天を祈る時紙にて裸體の人形を作り外に出だし置くもの。願叶へば衣を着せ食物を供へなとして之に謝す。

ておひ

手負(名)

「一」手傷を負ふ事。「二」傷を破りたる人。●負傷者。

ておぼえ

手覺(名)

手ざばりに覺のある事。●おぼえ。●踊(名)

てなどり

の。

ておち

手落(名)

手抜。●ぬかり。

ており

手織(名)

我家にて織りたる織物。

てなの

手斧(名)

斧の一種。又直角に曲りたる柄を附け木を削るに用ふるもの。

てなけ

手桶(名)

提ぐるやうに手の附きたる桶。

ておもし

手重(形。形狀言ク活)

おもし。●簡單ならぬ。●鄭重なる。

てわたし

手渡(名)

手より手に渡す事。●直接に授受する事。

てわけ

手分(名)

人手を配り分つ事。●分業。

てわざ

手業(名)

手にてする業。●手細工。●手仕事。

てがひ

手飼(名)

手近く飼ひ置く事。

てがひ

(形)

頗る大なる。(俗)

てがひのうら

手飼の虎(名)

猫の異名。(謡曲)

てがる

手輕(名)

早く間に合ふ事。●輕便。●簡易。

てがるし

手輕(形。形狀言ク活)

手輕である。

てかた

手形(名) 〔一〕手の形を證として紙に押す事。

●押手。●印。〔二〕手形を押したる證書。

●切符。●券。

てかたし

手堅(形。形狀言ク活) かたし。●確實なる。

●堅固なる。●大丈夫なる。

てかね

手鉄(名) 徳川時代刑罰の名。日を限りて手錠

を施すもの。

てがら

手絡(名) 女の髮懸の切れ。

てがら

手柄(名) 功。

てがらみ

(名) 手を組む事。(空穗)

てかく

手搔(自動四段) 手先を動かして人に黙れと制

する。○袂衣「忍びて笑へばあなかも」

と手ツきて制し給ふ」

てかく

手懸(他動下二段) 事に當たる。●従事する。

てかけ

(名) めかけ。●妾。

てかこ

手籠(名) 手に提ぐる籠。

てがさ

手傘(名) 被り笠に柄を附けて片手に差しかさ

しゆくもの。

てかき

手書(名) 手のよき人。●能書家。

てがめ

手瓶(名) 手の附きたる瓶。

てがみ

手紙(名) 書狀。●書簡。●文。

てかし

手枷(名) 刑罰の具。枷の一種。手に纏ふもの。

手錠の類。

てかせ

手枷(名) てかしに同じ。

てかせ

手風(名) 手を動かす時生ずる風。○謡曲「鈴

の手風」

でかせぎ

出稼(名) 他所に出て稼ぐ事。

でかす

(他動四段) 〔一〕出来さする。〔二〕見事に出来

る。●上出来である。○「天晴でかした」

てだい

手代(名) 〔一〕商家にて番頭の下役。〔二〕徳川

時代。代官の下役。

てだり

(名) てだれに同じ。

てだれ

(名) 熟練。

てだらめ

(名) 口から出まかせ。●出放題。△(形)「

でたらめな。(副)「でたらめに。(俗)」

てだま

手玉(名) 〔一〕上古裝飾として手に纏ひたる

玉。〔二〕女兒の玩具。小さく美しき袋に赤

豆など入れて手にて取り遊ぶもの。

てだて

手楯(名) 武器の名。手に携ふる楯。

てだて

手立(名) 手段。●計畧。●方法。

でそろふ

出揃(自動四段) 残らず出る。

てさう

手相(名) 手の筋に顯はれたる人相。

てぞめ

手染(名)

我手にて染むる事。

でぞめ

出初(名)

初めて出づる事。

てつ

鉄(名)

金匱の名。色黒く質堅くして刀劍などに作るもの。

てついろ

鉄色(名)

染色の名。鉄銹の如く赤黒き色。

てつばつ

鉄鉢(名)

佛家にて用ふる鉄製の鉢。托鉢僧の携へて錢を乞ひ入るゝもの。

てつぱう

鉄砲(名)

「一」武器の名。彈丸と火藥とを籠めて打ち出すもの。大砲小銃の二種あり。

●筒。「二」すべて之に似たる形の物。

てっぺん

天邊(名)

てへんに同じ。

てっぺき

鉄壁(名)

鉄にて造れる壁。破り難き防ぎの壁へ。○謡曲「鉄壁も徹れさ突く長刀

な」

てつたう

鐵道(名)

車を走らする爲に鉄材を敷きたる道。

てつたうばし

鐵道馬車(名)

馬車の一。鐵道線路を走るもの。

てつとつてつび

徹頭徹尾(副)

最初より最終まで。●全

てつち

丁稚(名)

商家に使はるゝ少年。●小僧。

てつる

手蔓(名)

手掛り。●續き合ひ。●縁故。

てつおなんど

鉄御納戸(名)

染色の名。鉄色を帯びたるお納戸色。

てつがひ

手結(名)

左右近衛府の馬場にて武官のおの競馬射藝などを試むる儀式。共に二日つ

ありて其下試なるを荒手結といひ本式の當日を眞手結といふ。左近衛は荒手結五月

三日、眞手結同五日。右近衛は荒手結同四日、眞手結同六日。

てつかひ

手遣(名)

舞の舞ひぶり。●歌の歌ひぶり。

●琴などの弾きぶり。

てつから

(副)

我手を以て。●手を下して。●自身に。

●直接に。

てつがく

哲學(名)

學科の名。諸學科を綜合して千古不易の大眞理を研究するもの。

てつかみ

手攫(名)

箸などにて取るべきものを素手にて攫み取る事。

てつよし

手強(形。形狀言ク活)

強し。●ひごし。

てつだひ

手傳(名)

手傳ふ事。又は其人。

てつたふ

手傳(他動四段)

加勢する。●補助する。

●助力する。

てつそ

鉄窓(名) 牢屋の窓。●牢屋

てつ

手筒(名) 不手際。●拙。●下手。△(形)―て

づいなる。○新猿樂記「織紵裁縫甚だ以て

手筒なり」△(副)―てづいに。○紫日記「一

さいふ文字をだに書き渡し侍らういさてつ

てつづき

手續(名) 蹈むべき順序。●手順。●手配。

てつくり

手作(名) 「一」我手にて作る事。手製。「二」

調布に同じ。「三」手織の布。

てつぐね

手捏(名) 陶器製造の一法。轆轤を用ひす手

にて造るもの。

てつや

徹夜(名) 夜明かし。●夜通し。

てつま

手妻(名) 手品に同じ。

てつけ

手附(名) 手附金の略。

てつけきん

手附金(名) 物を買ふ約束して渡し置く證

據金。●手金。●手附。

てつかふ

手甲(名) 手の甲に掛くる手袋。

てつがふ

手都合(名) 手元の都合。●繰り合せ。

てつさつ

鉄札(名) 鉄製の札。重罪の死人を地獄に送る

時間覺王が其姓名を書き付くる料のもの。

極樂へ送るには金紙に書き付くるな

り。(佛教)

てつき

手附(名) 手の様子。●手にて物をする様子。

てつけう

鉄橋(名) 鉄製の橋。

てつきや

手突矢(名) 武器の名。矢の如く造りて手に

てつきう

て投げ遣り敵を突くもの。

鉄炙(名)

火鉢などの上へ渡して魚を焼く

鉄の器。

てつめ

手詰(名) 詰め寄せて迫る事。△(形)―手詰の。

(副)―手詰に。

てつめんぴ

鉄面皮(名) 鉄の如く厚き面の皮といふ

てつびん

鉄瓶(名) 火鉢などに懸けて湯を沸かす鉄製

の瓶。土瓶の類。

てつもり

手積(名) 手先にて量を積る事。

てつせい

鐵製(名) 鐵にて作る事。

てつせん

鐵線(名) 蔓草の名。夏の頃枯

梗に似たる六瓣の花咲くも

の。色は紫を帯びて白し。(圖)

てつせん

鐵扇(名) 鐵の骨の扇。

てつせん

撤饌(名) 神佛の供物を下ぐる事。

徹(自動サ變)

さほる。●貫徹する。○「寒氣骨に



てつす

徹す

徹(他動サ變)

「一」取り除く。「二」神佛又は貴人の膳を下ぐる。

てな

(助動)

てんの古言。○萬葉「梅の花今さかりなり思ふごちかざしにしてな今さかりなり」同「妹が門いや遠ぞきぬ筑波山かくれぬほとに袖は振りてな」

てなべ

手鍋(名)

柄のある鍋。

てなる

手馴(自動下二段)

手に馴るい。

てなは

手繩(名)

「一」捕繩。^{とじなは}●早繩。「二」幕を張る時乳に通して懸くる繩。

てなが

手長(名)

「一」神、佛、貴人などに奉る膳の間にて取り次ぎ持ち運ぶ役の人。●給仕。○お菊物語「御膳をばお末より出だすを御手長のもの受け取り其時お末のものごも毒味を致し又お側衆へ渡す」「二」想像國の人種。兩手の非常に長きもの。

てながえび

手長海老(名)

海老の一種。殊に手の長きもの。

てながざる

手長猿(名)

猿猴の一種。熱地の産にて前肢の長きもの。

てながじま

手長島(名) 手長「二」の住む島。

てなれ

手馴(名) 手馴るい姿。

てなつく

手懷(他動下二段) 我に懷く様にする。

てならひ

手習(名) 「一」手本を見つ字を書き習ふ事。●習字をする事。「二」手なぐさみに書く事。●樂書をする事。○源氏「唯手習のやうに書きすさみ給ふ」「三」樂書にしたる字。○源氏「御手習取り出でたり」

てならひこ

手習子(名) 手習の稽古に來る生徒。●てらこ。

てならふ

手習(自動四段) 手習をする。

てならす

手馴(他動四段) 手に馴らす。

てなみ

手並(名) 腕前。●業前。●伎倆。

てなし

手無(名) 衣服の一種。袖の無きもの。●袖なし。(著聞)

てら

寺(名) 「一」佛を祭り置く家。「二」特には三井寺。

てらごもり

「三」轉じては基督教の會堂。

てらゐ

寺井(名) 寺の井戸。

てらいり

寺入(名) 寺子屋の弟子入。

てらほふし

寺法師(名) 三井寺の僧徒。

てらつつき

啄木鳥(名) 鳥の名。きつつきの一名。

てらふり

街(他動四段) 其振りをする。●みせびらかす。●自慢する。○「博識を街ふ」

てらまわり

寺参(名) 佛寺への参詣。●墓参。●佛参。

てらこ

寺子(名) 手習の生徒。

てらこや

寺子屋(名) 「一」寺にて手習讀物等を教へたる所。「二」轉じて手習の稽古場。

てらでら

寺々(名) 所々の寺。●此寺やあの寺や。

てらめぐり

寺廻(名) 所々の寺を拜み廻る事。

てらし

照(名) 蠟燭。

てらす

照(他動四段) 「一」光を及ぼす。●かっやかす。「二」見くらべる。●對照する。

てむ

(助動。特狀) てんの古體。

てん

天(名) 「一」あめ。●空。●虚空。「二」天にまします神。●天神。「三」天命。●運。「四」天然。●自然。●天性。「五」佛教にて云ふ十

てん

界の一つ。縁覺界の下人界の上にある世界。

てん

天人の住む所。

てん

貂(名) 獸の名。鼬に似て大きく毛の黄なるもの。

てん

典(名) 「一」法律制度。「二」書物。

てん

篆(名) 漢字の書體の一つ。楷書よりも遙に古き

てん

點(名)

體のもの。多く印形などに用ひらる。「一」すべて小さく丸く附けたる形のもの。●ばち。●ばち。「二」漢文の轉倒を示す印。上中下、二三、レなどの類。「三」和歌文章を添削する時に掛くる印。形のもの。「四」古代時間の稱。一時間の五分の一。○「五更の一點」「辰の三點」「五」或る一部分。○「非難すべき點なし」

てん

轉(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

てん

點(名)

體のもの。多く印形などに用ひらる。「一」すべて小さく丸く附けたる形のもの。●ばち。●ばち。「二」漢文の轉倒を示す印。上中下、二三、レなどの類。「三」和歌文章を添削する時に掛くる印。形のもの。「四」古代時間の稱。一時間の五分の一。○「五更の一點」「辰の三點」「五」或る一部分。○「非難すべき點なし」

(助動。特狀) 過去ので(つ)の變化)と推量の人との重なりたる詞にてんの一層強きもの。○拾遺「ありとても幾世かは経る韓國の虎伏す野邊に身をも投げてん」

殿(名) 「一」この。「二」清凉殿。

傳(名) 「一」一代記。●傳記。「二」註釋。○「古事記傳」「三」傳説。●傳言。

天意(名) 天神の御心。●天命。

天位(名) 天皇の御位。

天威(名) 天皇の御威光。

天一天上(名) 曆にていふ詞。

天一神の天に登りて在る間の時季。

てんいちじん

天一神(名) なかがみを見よ。

でんば

傳播(名) 世に傳はり廣まる事。●流布。△(動)

―傳播す。

てんばい

天盃(名) 天皇より賜ける御盃。

でんばた

田島(名) 田地と島地と。

てんばつ

天罰(名) 天より受くる刑罰。

てんに

天女(名) 天界に住む女性の神人。容貌美しく
身に翼ありて空中を飛行し常に音楽など奏
するもの。〔佛教〕

てんにん

天人(名) 天女に同じ。〔佛教〕

てんじん

轉任(名) 他の官職に任する事。●役替。△
〔動〕―轉任す。

てんにん

天人樂(名) 雅樂の曲名。

でんばう

電報(名) 電信にての報知。

てんばう

天保錢(名) 銅貨幣の名。天保九年に鑄
たるもの。楕圓形にして中央に四角なる穴
あり。維新後八厘として通用せしが近年は
廢せられたり。

てんばう

天變(名) てんべんに同じ。

てんべん

天變(名) 天然に起る異變。雷、地震、洪水、
海嘯の類。

てんべん

天變(名) 天然に起る異變。雷、地震、洪水、
海嘯の類。

てんべん

天變(名) 天然に起る異變。雷、地震、洪水、
海嘯の類。

てんべん

天變(名) 天然に起る異變。雷、地震、洪水、
海嘯の類。

てんべん

天變(名) 天然に起る異變。雷、地震、洪水、
海嘯の類。

てんべん

天變(名) 天然に起る異變。雷、地震、洪水、
海嘯の類。

てんべん

天變(名) 天然に起る異變。雷、地震、洪水、
海嘯の類。

てんと

(名) 天幕。

てんどう

纏頭(名) 歌舞など奏したる人へ褒美に與ふ
る衣。又は他の金品。

てんどう

點燈(名) 燈火を點する事。●火を燈す事。
△(動)―點燈す。

てんどう

點頭(名) うなづく事。●合點する事。△(動)
―點頭す。

てんどう

天道(名) 〔一〕天然の道。●天帝の道。〔二〕
天神。○宇治「庭に荒蕨を敷きて出て、天
道に訴へ申し給ひけるに」

てんどう

天童(名) 天部に仕ふる童子。〔佛教〕

てんどう

天堂(名) 極樂。●淨土。〔佛教〕

てんどう

顛倒(名) 〔一〕さかさまになる事。●ありや
こりやになる事。△(動)―顛倒す。〔二〕漢
文にて用法を語り文字を上下置き違ふる
事。〔三〕漢文を譯讀する事。下の文字より
上の文字に返りて逆に讀む事。

てんどう

電燈(名) 電氣燈に同じ。

てんどう

傳燈(名) 教法を授受して長く傳ふる事。〔佛
教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

てんどう

傳統(名) 傳授して來れる系統。〔佛教〕

でんだう 傳道(名) 教旨を傳へ弘むる事。(基督教)

でんだうほこり 天道埃(名) 日向に立つ埃。(著聞)

でんだうち 傳道地(名) 傳道すべき土地。●傳道しつ

ある土地。(基督教)

でんだうし 傳道師(名) 傳道者に同じ。(基督教)

でんだうし 傳道者(名) 傳道する人。(基督教)

でんごく 轉讀(名) 經文の要書々々を抜き讀にする

事。△(動)―轉讀す。(佛教)

てんち 天地(名) 〔一〕天と地と。〔二〕轉じて上下。〔三〕

天神と地神と。

てんち 轉地(名) 療養などの爲めに居所を替ふる事。

△(動)―轉地す。

でんち 田地(名) 田となりたる地面。

てんち 天聽(名) 天皇の御耳に入る事。●窺

聞。

てんてう 天朝(名) 朝廷。●朝家。●皇室。

てんちうちきう 天長地久(句) 天の如く長く地

の如く久し。

てんちうせつ 天長節(名) 我國の祝祭日三大節の

一つ。十一月の三日今上陛下御降誕の佳辰。

てんちく 天竺(名) 國の名。印度の古名。

てんちや 點茶(名) 茶を立つる事。

てんちゆう 天誅(名) 天罰にて加へらるる誅伐。

てんちゆう 殿中(名) 幕府の殿の中。

てんり 天理(名) 天然の道理。

てんりやう 天領(名) 皇室の御領地。

てんりんざう 轉輪藏(名) 輪藏に同じ。

てんりゆう 天龍(名) 天の諸神と龍神龍女等と。(佛

教)

てんおん 天恩(名) 〔一〕天の恩。〔二〕陰陽道の詞。吉

日中の吉日。〔三〕天皇の御恩。

でんわ 電話(名) 電話機によりて話を爲す事。

でんわき 電話機(名) 電氣の作用にて遠方の人と對話

する機械。

てんか 天下(名) あめがした。●世の中一般。●一國

中。●世界中。●全國中。●全世界。

てんか 天下(代) 親王、諸王、關白の尊稱。

でんか 天蓋(名) 佛像又

に棺などの上に

てんがい 差し掛くる笠の

類。長き柄の先



に蛇の形など作り付け之に環珞の垂れたる
笠を釣りたるもの。(圖)

てんがい

天界(名) 天上の世界。●天人の住む世界。

てんがい

天涯(名) 空のはて。●遠く離れたる所。

てんがいばな

天蓋花(名) 草の名。曼珠沙花の一名。

てんかへ

出迎(名) 出て迎ふる事。又は其人。

てんかん

癲癩(名) 病の名。身體俄に引きつりて感覺
を失ひ口より泡を吹き出だしたる病。

てんがん

天顔(名) 天皇の御顔。●龍顔。

てんがんき

天眼鏡(名) 眼鏡の一種。人相見の
用ふる大なるもの。

てんがんき

手向(自動四段) 腕力を以て向ひ來る。●
はむっふ。

てむか

出迎(他動四段) 出で迎ふ。

でむか

出向(自動四段) 出で向ひ行く。●出發す
る。

でむか

田樂(名) 〔一〕鎌倉時代に行はれたる歌舞の
一種。樂器は編木、横笛、大鼓、小鼓、羯鼓を
用ひ藝は中門口、立逢、刀玉、高足など様々
の曲ありて狩衣、差貫に綾間笠を着て演ず
るもの。〔二〕食品の名。豆腐を串に貫き味

でむか

でんかくほふし

田樂法師(名) 田樂を業とする法師。

でんかく

でんたい

天體(名) 天文學上の詞。天上に並び居る日
月星等の諸體。

でんかく

てんだいしゅう

天台宗(名) 佛教の一派。八宗の一つ。
桓武天皇の御宇に傳教大師唐より歸り比叡
山に寺を建立して弘めたる宗旨。唐の天台
山智者大師を祖としたるもの。

でんかく

でんたつ

傳達(名) 順送りに届くる事。△(動)―傳達
す。

でんかく

てんたく

轉宅(名) 引越。●屋移り。●轉居。●移轉。
△(動)―轉宅す。

でんかく

てんれい

典禮(名) 儀式。

でんかく

てんそ

田租(名) 田地の租税。

でんかく

でんそ

傳奏(名) 徳川時代。武家よりの奏聞を承け
繼ぎて天皇に奏する事。又は其役を爲す人。

でんかく

てんつき

△(動)―傳奏す。

でんかく

てんねん

天衡(名) 兜の前立の一種。(圖)
天年(名) 天より與へられたる
壽命。

てんねん

天然(名) 「一」自然。●造化。「二」生れのま

い。●性質。……△(形)——天然の。(副)——天然に。

でんらい

傳來(名) 傳はり來る事。△(動)——傳來す。

てんらん

天覽(名) 天皇の御覽。●觀覽。

てんらん

展覽(名) 書畫物品などを集め並べて見する事。

てんうん

天運(名) 天然自然の運命。●廻り合せ。●天命。●命。●運。

てんのつかひ

天使(名) てんしに同じ。(基督教)

てんわう

天皇(名) すめらみこと。●天子。●陛下。

てんわう

天王(名) 「一」天界の神。「二」牛頭天王の略。

……(佛教)

てんのまなこ

天眼(名) 天帝の見る目。

てんのこんつ

天漿(名) 仙人の飲む酒の名。飲めば長

壽するさいふもの。(謡曲)

てんく

轉句(名) 絶句の第三句目の稱。

てんぐ

天狗(名) 「一」一種の想像動物。翼あり足あり

て鼻高く山伏の姿にて深山に住み又空中を飛行するもの。「二」慢心又は慢心なる人。

てんぐばやし

天狗囃子(名) 深山海上などにて不意に

てんぐで_{チヨ}ふ_リ

音樂の聲の聞ゆるをいふ。

天狗帖(名) 紙の一種。極めて薄く白

てんく

點火(名) 火を點する事。●點燈。△(動)——點

火す。

でんく

電火(名) 電光。●稻妻。

てんぐん

天冠(名) 天人の着るやう

なる冠。金銀などの環珞を飾り垂らしたるもの。

(圖)

でんくわう

電光(名) 稻妻。●稻光り。

てんくふん

天花粉(名) 藥品の名。

あせもなどに塗りて効あるもの。

てんぐだふ_オし

天狗倒(名) 深山、夜中など俄におびた

いしき聲して林中などを吹き度る風。

てんやく

典藥(名) 典藥寮の略。

てんやくれ_{リョウ}

典藥寮(名) 古代官廳の名。宮内省に

屬して天皇の御醫藥等の事を掌るところ。

官吏は頭、助、允、屬、醫博士、女醫博士、針博士、侍醫、醫師あり。

てんま

傳馬(名) 「一」驛路にて官用に供する荷馬。



〔二〕親舟に附屬せる小舟。

てんまつ

顛末(名) 始め終り。

てんまく

天幕(名) 〔一〕建物の上部に短く張る幕。〔二〕室外にて雨、風、夜露など防ぐ爲めに張る幕。野營などに用ふるもの。●てんき。

てんけん

點檢(名) 一つ一つに検査する事。△(動)―點檢す。

てんぶ

天部(名) 天界に住む神人。〔佛教〕

てんぶ

天父(名) 神。〔基督教〕

てんぶ

田夫(名) 農夫。●百姓。

てんぶら

天麩羅(名) 食品の名。魚肉などに鰹鮓粉な

ごの衣を掛け油にて揚げたるもの。

てんぶん

傳聞(名) 人より傳へ聞く事。△(動)―傳聞す。

てんぶん

澱粉(名) 水の底に淀むべき粉。

てんこ

典故(名) 書物にある故事。

てんこつ

天骨(名) 天性。●生れ付き。●性質。

てんごん

傳言(名) ことづて。●ことづけ。△(動)―傳言す。

てんこく

篆刻(名) 篆書にて印を彫刻する事。

てんこく

天國(名) 神のまします天上の國。人の靈魂

てんこく

典獄(名) も死すれば此に昇る。〔基督教〕

長官。

てんごく

詔曲(名) 媚び諛ふ事。●阿諛。●諛諛。〔大鏡〕

てんてい

天帝(名) 天上の主宰の神。●天神。

てんてい

〔副〕〔一〕手に手に。●手毎に。〔二〕各自に。●各。●何れも。●めいゝに。

てんてん

點點(副) 點を打ちたる如き有様。

てんでんたいこ

〔名〕 玩具の名。柄のある太鼓の兩方に小き鈴を糸にて結び付け之を振り鳴らすやうに作れるもの。

てんさい

天災(名) 天然の災害。風害、水害、地震の類。●天變。

てんさい

天才(名) 生れ付きの才氣。●天稟。

てんざん

天蠶(名) 虫の名。山繭の一名。

てんざん

點算(名) 和算にて代數の稱。

てんざく

添削(名) 和歌詩文など筆を加へて直す事。

てんき

天氣(名) ●斧正。●刪正。●雌黃。△(動)―添削す。

天象。●天色。●天候。〔二〕轉じて晴れた

てんき

る天氣。●晴天。
天機(名) 〔一〕天帝の機密。●造化の秘事。〔二〕

天皇の御機嫌。

でんき

電氣(名) 物理學上の詞。摩擦に因りて生ずる

一種の力。或物を吸引し或物を疎却し又熱を放ち光を發するもの。●えれき。

でんき

傳記(名) 一代記。●傳。

でんきどう

電氣燈(名) 燈火の一種。電氣の力にて點

するもの。

てんき

轉居(名) 住居を移す事。●引越。●わたまし。

●移轉。●轉宅。△(動)―轉居す。

てんき

典廐(名) 左右馬寮の頭の異名。

てんめい

天命(名) 天然の運命。

てんし

天子(名) 皇帝。●天皇。●帝。●至尊。

てんし

天使(名) 〔一〕徳川時代の詞。朝廷より幕府に

下さるゝ勅使。〔二〕天父より此世に降さる

ゝ使。●あまつ使。(基督教)

てんじ

典侍(名) 女官の名。―内侍のすけに同じ。……

ないしを見よ。

てんし

篆書(名) 篆に同じ。

てんし

添書(名) 〔一〕其物に添へて贈る書面。●添狀。

てんし

〔二〕其人を紹介する手紙。●紹介狀。
天上(名) てんじやう〔一〕に同じ。

てんし

天象(名) 〔一〕天上の諸物。日月星辰の

類。〔二〕天氣。●氣象。

てんじ

天上(名) 〔一〕天人の住む世界。●天界。

〔二〕天に上る事。●上天。△(動)―天上す。

てんじ

天井(名) 屋根の下に梁など隠す爲め板

を張りたるところ。

てんじ

殿上(名) 〔一〕禁中にて紫宸殿および清

涼殿の上。〔二〕殿上人。〔三〕殿上人になる

事。△(動)―殿上す。

てんじ

殿上口(名) 殿上の入口。

てんじ

殿上人(名) 殿上に昇りて天皇の御

前に侍し得る資格の人。……三位以上は固

より殿上人なれば特に此稱を用ひす。四位

の中にて此特權を得たるものを常に殿上人

と稱ふ。○「上達部殿上人」

てんしん

點心(名) 茶請に食ふ菓子の種類。

てんじん

轉軫(名) 三味線の名所。糸を置くところ。

てんじん

天神(名) 〔一〕天にまします神。〔二〕能面の

名。天神の容貌に擬して作れるもの。〔三〕

特には北野天神。●天満宮。

電信(名) 電信機に依りての通信。●電報。

でんしん

電信機(名) 電氣の力を利用して遠隔の地に音信を通ずる機械。

でんし

傳寫(名) 書畫など寫したるものを又寫す事。●孫寫。△(動)―傳寫す。

でんし

殿舎(名) どの。●やかた。●御殿。

でんし

田舎(名) 田な。

でんしにち

天赦日(名) 曆にていふ詞。吉日の一つ。

でんし

天主(名) 城の櫓の最高のところ。

でんし

天主(名) 神。●天父。(基督教)

でんじ

轉手(名) 琵琶の糸を巻き付くるところ。

でんじ

傳授(名) 傳へ授くる事。△(動)―傳授す。

でんしかく

天守閣(名) 天守に同じ。

でんしけう

天主教(名) 基督教の一派。羅馬法主を教主と仰ぐもの。●舊教。●羅馬教。

てんび

天日(名) 太陽の光り又は熱。

てんびやうがは

天平草(名) 草の一種。佛像唐草など曰くあらはしたる柿色の草。天平時代に行はれしもの。

てんびん

天秤(名) 「一」秤の一種。竿に目を盛り其兩

方に物品と分銅とを釣りて量るもの。「二」

天秤に用ふる竿。

てんびん

天稟(名) うまれつき。

てんもん

天文(名) 「一」天上に形をあらはす總べてのもの。日月、星、雲、虹の類。「二」天文學の略。

てんもんはかせ

一 天文博士(名) 官名。陰陽寮に屬して天文の觀察を掌る役。

てんもんがく

天文學(名) 「一」古は天文を觀察して人間界の吉凶禍福など占ふ術。「二」今は天體を觀測して其真相を研究する學問。

てんもんだい

天文臺(名) 天文を觀測するための高さ場所。

てんもく

天目(名) 茶の湯にて用ふる茶碗の一種。

てんせい

天性(名) 生れ付きの氣質。●天質。●天稟。●性分。●資性。

てんぜん

典膳(名) 内膳司の次官。

でんぜん

傳染(名) 病氣のうつる事。△(動)―傳染す。

てんず

轉(自動サ變) 「一」ころがる。●まろぶ。「二」うつる。●移轉する。●變轉する。●轉任する。

てんする

天水(名) 雨となりて降りたる水。●雨水。

てんするなけ 天水桶(名) 火災を防ぐ爲に雨水を溜め置く桶。

てのうち

手内(名) 「一」手のひら。「二」手なみ。

てのうち

手裏(名) 手のひら。

てのこひ

手拭(名) てぬぐひに同じ。

てのひら

掌(名) 手の甲の裏の平らなる所。●たなこゝろ。●たなそこ。

てのもの

手物(名) 「一」部下の兵。「二」得意の藝。藝

でく

木偶(名) 人形。

でく

出来(自動上二段) 「一」出て来る。●あらはるゝ。

「二」出来上がる。●成る。「三」生る。「四」上手に出来上がる。

てくばり

手配(名) 手を分けての準備。●手分。●部

署。

でくぼく

凹凸(名) 高低ありて平らかならぬ事。

てぐり

手繰(名) 手にて繰る事。

てぐるま

轡(名) 輿に輪を掛けて手にて挽く車。内裏

の御門内庭上などにて乗るもの。……延喜式に曰く凡そ、輦車に乗りて内裏に出入するは妃は曹手に限り夫人および内親王は温

てぐるま

明殿、後涼殿の後に限る」

手車(名) 「一」肩車的一名。「二」我所有の人

力車。

てぐるまのせんじ

輦(名) 輦に乗りて内裏に出入

すべき特別の宣旨。(源氏)

てくはす

(自動四段) ふと行き合ふ。

てくび

手首(名) 手の先。●掌のある處。

てくせ

手癖(名) 手の癖。

てぐす

天蠶(名) 魚を釣るに用ふる糸の一種。てぐす

虫より取りたるもの。

てぐすむし

天蠶(名) 虫の名。蠶に似て大きく栗、櫛な

ごの葉を食ふもの。

てやり

手槍(名) 槍の一種。短くして携帯に便なるもの。

てま

手間(名) 「一」其事に費やす時間。●ひま。「二」手

てま

間賃「三」手間賃にて労働する事。●入手間。

てまはり

手廻(名) 「一」身近きあたり。●手許。●坐

てまはり

右。「二」武家の詞。旗下に同じ。●麾下。●

てまはり

親兵。●護衛兵。

てまはり

手惑(名) 周章。●狼狽(雅)

てまはり

手鞠(名) 女界の玩具。綿を心にして絲にてか

やりたる類。

でまる

出丸(名)

出城。

てまはし

手廻(名)

用意。●支度。●準備。

てまね

手眞似(名)

「(一)手にてする物眞似。」「(二)手を動かして我意思を告ぐる事。●手話。

てまねき

手招(名)

手先を上下して人を呼ぶ事。●おいで。

てまくら

手枕(名)

手を枕にする事。●たまくら。

てまへ

手前(名)

我手の前。●身に近き方。其人の前。

てまへ

手前(代)

私。●拙者。

てまざる

(名)

手にて弄ぶ事。

てけ

(名)

ていけの略。◎天氣。○土佐「てけの事攢取の心にまかせつ」

てふり

手振(名)

手を打ち振りつゝ貴人の供する男。○空穂「四位五位合はせて六十人ばかり。御馬ども引きたて手振ども立ち並みたり」

てぶり

手振(名)

風俗。(雅)

てふた

手札(名)

名札。●名刺。

てふね

出船(名)

「(一)出で行く船。」「(二)船出。●出帆。

てぶら

(名)

何も手に持たぬ事。●から手。

てぶんこ

手文庫(名)

手近の小道具を入るゝ文庫。●

てぶくろ

手袋(名)

手先にはめる袋。

てふき

手拭(名)

手を拭く爲めに携ふる布。てぬぐひ、ハンケチの類。

てこ

槌(名)

物をこち動かす爲の棒。

てころ

手頃

我手に適當する程の頃合。△(形)「手頃の。」「(副)「手頃に。」「

てこはし

手強(形。形状言ク活)

てつよしに同じ。

てこたへ

手答(名)

弓を射、刀にて斬りなごしたる時其手に覺ゆる當たる當たらぬの感じ。○謠曲「手こたへしてはたさ當たる」

てこな

手兒名(名)

顔よき少女。(萬葉)

てこら

手兒等(名)

てこなに同じ。○拾遺「さい波や志賀のてこらはもどりにし川瀬の道を見ればかなしも」好忠集「卯つ木原でこらが布をさらせるさ見えしは花の咲けるなりけり」

てこらさ

(形)

うつくしさ。●愛らしさ。○拾遺「かの見ゆる澤邊に立てるそが菊の茂みさえたの色にてこらさ」

てごころ

手心(名)

手ざばりにし知る加減。●手加減。

てごめ

手込(名)

暴力を以て押し伏する事。

てへ

(自動)

と言への約音。○伊勢集「昔より名高き宿

の言の葉は木のもきに、こて落ちつゝもて

へ」拾遺「我のみや子持たるてへば高砂の

尾上に立てる松も子持たり」

てへり

(他動ラ變)

と言へりの約音。

てへれば

(副)

と言へればの約音より起れる詞。◎といふ譯なるにより。●故に。●よりて。

てて

(名)

父。

ててはは

(名)

父母。(大和)

てておや

(名)

父親。

ててれ

(名)

綱にて鳥を捕る時の媒鳥。(和名抄)

ててれ

(名)

つれ。●藻縷。

てでむし

(名)

蝸牛(名) りたつかりの一名。

ててき

(名)

ててきみの畧。●父君(空穗)

ててきみ

(名)

父君。(空穗) 連中。●仲間。

てあひい

(名)

出合(名) 出合ふ事。

てあひい

(名)

手厚(形。形狀言々活) 丁寧である。

てあつし

(名)

出合(自動四段) 出先にて逢ふ。●會合する。

てあふり

●物々物々が一つになる。

火鉢(名) 火鉢の一種にして膝たぎに上げ手

てあて

をあぶるもの。

手當(名)

「一」其物事に對する相當の處置。

「二」醫師の治療。「三」心付まして與ふる金

錢又は物品。

てざいく

手細工(名)

「一」手先にての細工。●手仕事。

●手工。「二」手づくり。●手製。

てざはり

手障(名)

手に障りたる工合。

てざかり

出盛(名)

物の最も多く出づる盛の時。

てざかる

出盛(自動四段)

出盛の時になる。

てざく

手作(名)

自身に耕作する事。

てざぐり

手探(名)

目を使はずに手先のみにて探る

てざげ

手提(名)

革鞆、袋、籠などの類。すべて手に提

てざき

手先(名)

手の先。●指の先。

てざき

出先(名)

他出したる行き先。

てき

敵(名)

「一」つたき。●讎。「二」相手。

てき

的(助名)

漢語より來れる名詞など形容詞にする時

の詞。上の風などいふ程の意。○「科學的の

言葉」「科學上に同じ」「宗教的觀念」「宗教の

に同じ。」「官吏的に威張る」「官吏風に同じ」

でき

(助動) 過去ので(つ)の變化と過去のきとの重な
りたる詞。きの強きもの。

でき

手木(名)

十手の一名。

でき

出来(名)

「一」出来上がりたる様子。●出来榮。●
結果。「二」出来合。

でき

適意(名)

我意に適する事。●隨意。●氣儘。

でき

出来映(名)

「一」出来上がりてよく見ゆる
事。「二」出来上がりたる様子。●結果。

でき

適度(名)

度に適ふ事。●適宜。△(形)―適度
の(副)―適度に。

できた

適當(名)

よく當てはまる事。●相應する事。
●適應する事。△(動)―適當す。

でき

躑躅(名)

木の名。つゝじ

でき

出切(自動四段)

出盡す。●出拂ふ。

でき

手際(名)

「一」技術の巧拙。●上手下手。「二」
巧なる事。●上出来。

でき

摘要(名)

殊に必用なる部分を取り出す事。
●拔萃。

できた

(自動四段)

敵となりて闘ふ。●齒向ふ。●
敵する。

でき

適例(名)

適當の例。

でき

手奇麗(名)

手際の奇麗なる事。△(形)―手
奇麗なる。(副)―手奇麗に。

でき

出来事(名)

其時に起りたる著しき事柄。

でき

出来心(名)

ふと起る惡心。

でき

出来合(名)

注文を待たず前より出来上がり
りたる品。●でき。

でき

出来秋(名)

稻の實る季節。●取入時。

でき

手利(名)

伎倆の優れたる事。●腕利。●敏腕。

でき

適宜(名)

物の度合にあひて程よき事。●適度
△(形)―適宜の。(副)―適宜に。

でき

靚面(名)

目前。●まのあたり。△(形)―て
きめんの。(副)―てきめんに。

でき

溺死(名)

水に溺れ死ぬる事。△(動)―溺死す。

でき

敵手(名)

相手の人。

でき

出来物(名)

腫物の總名。

でき

適(自動サ變)

當てはまる。●適當する。●適
合する。

でき

敵(自動サ變)

相手になる。●敵對する。●匹
敵する。

でき

手疵(名)

武器にて負ひたる疵。●負傷。

でき

出水(名)

洪水。

てみじか

手短(名) 簡單。●簡略。●輕便。△(形)――

手短なる。(副)――手短に。

てみせ

出店(名) 商家にて本店より分れたる商店。●

支店。●分店。

てし

手師(名) てかき。●書家。

てし

(助動) てきの變化。○古今「花のごと世の常な

らば過してし昔は又も歸り來なまし」

でし

弟子(名) 業を受くる人。●門弟。●門人。●門

生。

でじろ

出城(名) 本城に附屬せる小城。

てしほ

手鹽(名) 茶碗の蓋

でしほ

出汐(名) いでしほ。●さす汐。●満ち汐。

てしよ

手燭(名) 燭臺の一種。柄を付けて持ち歩くも

の。

てした

手下(名) 其手に附きて働く人。●配下。●部

下。●子分。

てじな

手品(名) 手先に品物を弄して人の目を欺く一

種の術。

てしや

手者(名) 「一」手わざに巧なる人。「二」てかき。●

書家。

てじく

手酌(名) 自分獨り手にて酒を酌みて飲む事。

●獨酌。

てしごと

手仕事(名) 手先にてする細工。●手工。

てびろし

手廣(形) 廣しに同じ。

てびど

手人(名) 「一」藝又は手工をなす人。●工人。

「二」其手の人。●手下。●手のもの。

てびかへ

手控(名) 我手許に控へ置く事。又は其帳面

●手帳。

てびやうし

手拍子(名) 「一」手を打ちて樂器の拍子

に代用する事。「二」銅拍子の一名。

てびたひ

出額(名) 突き出でたる額。

てびき

手引(名) 「一」手づから引く事。糸などに云ふ。

○「手引の糸」「二」手にて導き案内する事。

●嚮導。●しるべ。

でも

(後) にも。(俗)

でもいしや

(名) 庸醫。●數醫者。◎あれでも醫者かこ

嘲る意。

てもど

手許(名) 我身に近きあたり。●手近。

てもち

手持(名) 手の持ち扱ひ。

てもちぶさた

手持無沙汰(句) 爲す事のなくして坐に

堪へ難き事。

てもすまに

(副) 手も休めずに。●手にて續け通しに。

○万葉「わけ、爲め我手もすまに春の野に
抜けるつばなぞめして肥えませ」

てせい

手製(名) 手づから製する事。●自製。

てせい

手勢(名) 部下の軍勢。●手兵。

てせま

手狭(名) 狭き事。

です

(自動) で御座ります。(俗)

ですいらす

(名) 入費の掛からぬ事。(俗)

てすぢ

手筋(名) 「一」手相として見る手のひらの筋。

「二」書く文字のたち。●書風。

てすり

手摺(名) 欄干。

てずさみ

(名) 手ずさびに同じ。

てずさび

(名) 手なぐさみ。

